令和６年度　壱岐市立霞翠小学校学力向上プラン

＜本校の研究全体構想＞

各種学力検査から見える児童の実態

○ＣＲＴ学力検査では、国語科・算数科共に「主体的・対話的な場面に関する問題」や「言語能力に関する問題」で全国比との差が大きい。領域では、国語科「話す・聞く」に落ち込みが見られた。しかし、観点別得点率が前年度より上回った学年、全国平均を上回った学年もあり、少しずつ学力の向上が見られる。特に、国語科の領域「読む」「書く」、算数科の領域「数と計算」「変化と関係」で、昨年度より点数が伸びた学年が多かった。
○学年の学力差、個人の学力差が大きい。

これまでの校内研究の成果と課題

○８教科（国語科・社会科・算数科・家庭科・音楽科・保健体育科・道徳科・外国語活動及び外国語科）の授業研究すべてでふりかえる過程を１０分以上確保することができた。
○解決結果の良さを味わう活動については、その質と量で研修を深めることができた。
○研究授業や研究協議で得たものを日々の授業に反映させ、授業改善を図っていった。
○日々の授業の中で、ふりかえる過程１０分以上確保ができないこともあった。
○学力の二極化については、授業での個別支援の手立てや支援体制の充実で、対応していく。

検証軸①　授業改善（教師自身の授業力向上）

検証軸②　ＣＲＴ学力検査（経年比較・全国平均との比較）

学校教育目標

自己指導能力を身に付けた霞翠っ子の育成

めざす児童の姿

○やさしい子ども　○かしこい子ども　○げんきな子ども

【研究主題】

子どもに確かな力を付けさせる授業展開の工夫

・**「確かな力」** とは
　本時に身に付けさせたい力（本時の目標）
　自ら考え、選択し、決定する力
・**「授業展開の工夫」** とは
　『第五版』を拠り所としながらも、確かな力に結びつくための手立てを工夫する。

【研究仮説】

教科の特性やねらいに応じた授業展開を工夫するとともに、自ら考え、選択し、決定するという学習活動を十分に確保すれば、子どもに確かな力を身に付けさせることができるであろう。

・　本時の「目標」「課題」「まとめ」「評価」を明らかにして授業を構成する。
・　本時のねらい達成のために、授業展開を工夫する。（各過程での手立て等）
・　児童の実態を把握し、個に応じた手立て（ワークシート、補助教材等）を用意する。
・　自ら考え、選択し、決定する学習活動を効果的に設定する。
・　ICT を効果的・積極的に活用する。
・　学習の自己評価をさせる。「授業のこころ」７項目より、児童の実態や学習内容に応じた項目で振り返りをさせる。（評価項目は単元を通して同じものとする。）
・　研究授業・研究協議内容を、それぞれの授業改善に生かす（短期のＰＤＣＡ）。

学力向上の視点からの取組

・　スキルタイムの取組による、基礎的・基本的な学習内容の定着
・　読書活動の推進
・　家庭学習の推進
・　家庭との連携（よくわかる霞翠小の活用）
・　学習規律の定着